

令和4年度ICT活用促進プロジェクト（モデル校事業）

令和4年11月4日

みどり市立大間々東小学校 公開授業



- はじめに
- 「DXキャリアチャレンジ」について
- 学習過程について
- 各学年の実践





出典：文部科学省ホームページ

「D Xキャリアチャレンジ」を行う必要性

[Society5.0]時代の到来

「始動人」の育成

気候変動や未知の伝染病、災害

自ら課題を発見し、地域の人的・物的資源と直接またはオンラインでつながりながら協働的に課題解決を行う

多様な人々と協働しながら主体的・創造的に活躍できる児童を育成

生活・総合的な学習の時間

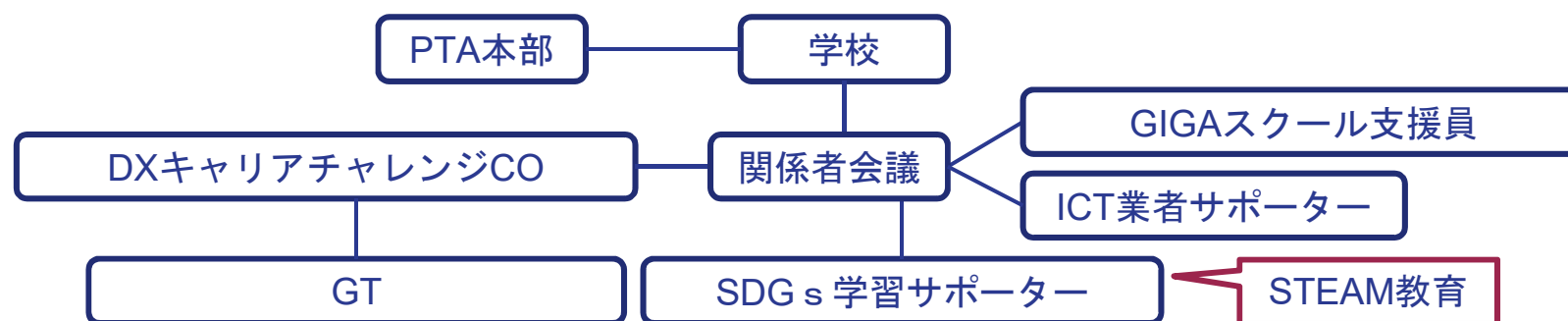
教科横断的な課題解決学習

地域の方々と協働しながらの課題解決学習

SDG s

「DXキャリアチャレンジ」組織図

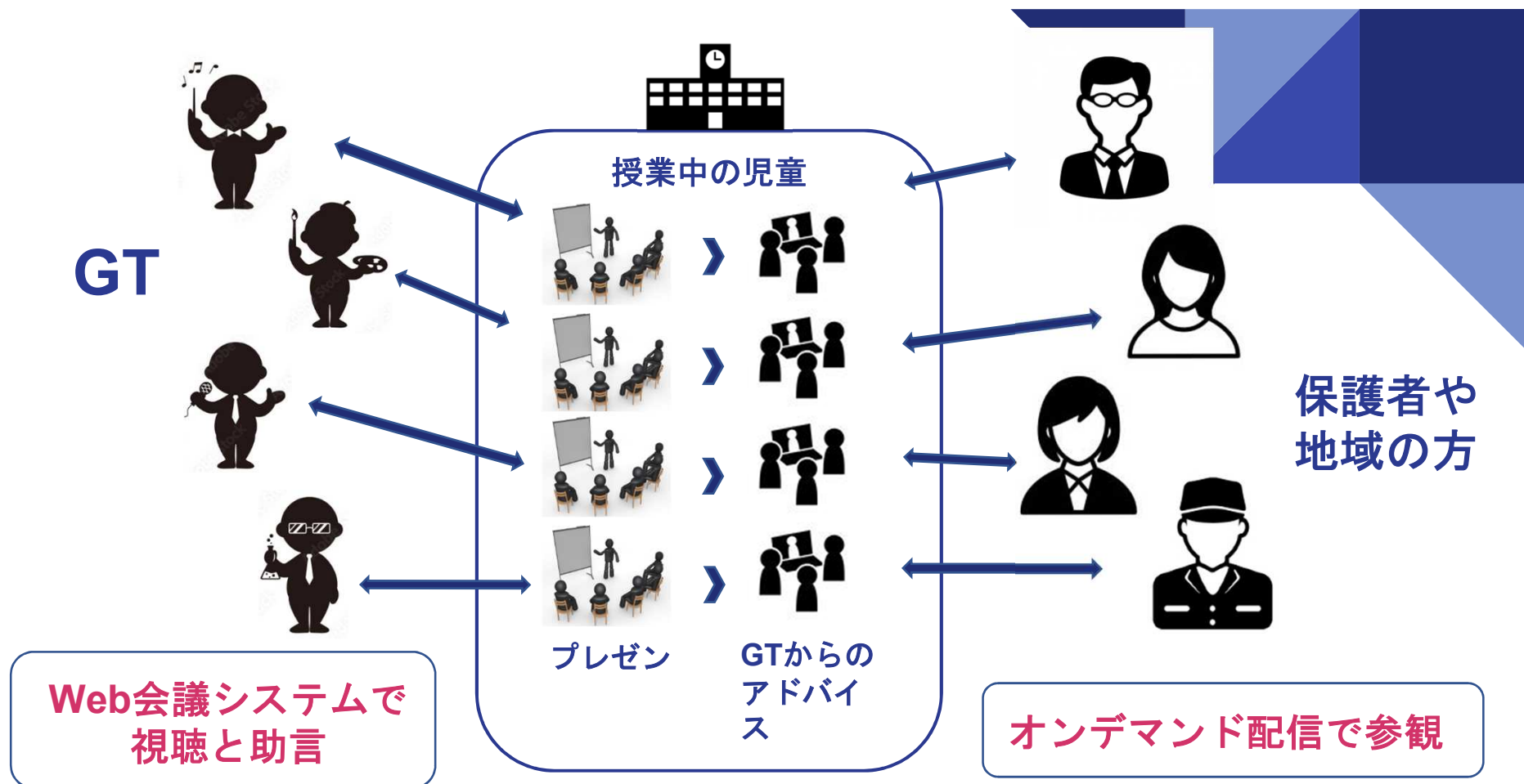
地域の方々と協働しながらの課題解決学習



DXキャリアチャレンジ

「ゲストティーチャー」（以下GT）
による課題への出会い（1学期）





DXキャリアチャレンジイメージ(オンライン)

タイムスケジュールの共有

時間	所要予定時間	GTの動き	児童の動き	教師の動き
11:20		「Jitsi」アプリよりオンライン接続を開始してください。カメラとマイクの確認ができれば、カメラとマイクは、オフでお待ちください。教師のあいさつの後にブレイクアウトルームに入り、マイクとカメラをオンにしてもらいます。	会場へ移動、トイレを済ませる、発表準備、スライドの用意、Jitsi Meetに接続し、ブレイクアウトルームに入っている。	タブレットの準備
11:30			6-1日直の号令「注目・礼」	
		登場 カメラとマイクオフ 司会「ooさん、お願いします。」 授業でカメラとマイクをオンにしてください。 落ち着いてから、話を始めてください。	児童の司会 「これからoグループの発表を始めます。まず、ooさんに登場していただきます。ooさん、お願いします。」	教師によるあいさつ 「今日は、総合の時間に作ったプレゼンテーションをGTの方に発表して、アドバイスをもらいましょう。それでは、それぞれのブレイクアウトルームに分かれて発表をしましょう。」
	10分	自己紹介 による自己紹介自己紹介をすることで、子供たちは、どのようなのかを知ることができます。 プロフィール（幼少期の夢や小学校時代に好きだったことやもの、ハマっていたこと、自分の夢の実現に向けてやっておくべきこと、GTの10年後、20年後の計画） ・現在までのキャリアや主な活動について（現在の仕事や活動はどのような内容なのか、その仕事や活動の前にはやっていたことに		

授業開始時刻だけでなく、接続開始時刻やGTがどのようなタイミングで話すのかを知らせておくスムーズです。

遠く離れたGTとの打合せは、なかなか難しいです。そこで、教師側がこんなことを話してほしいという要望が必要となります。

各学年の学習過程(例)

- ①課題の設定 ②情報の収集
③整理・分析 ④まとめ・表現

DX はDXキャリアチャレンジ
○は情報リテラシー

第1サイクル

①課題の設定

各教科の学習や総合的な学習の時間をもとに自己課題を設定する

DX 学習サポーターからの視点の紹介

②情報収集 ③整理・分析

書籍やインターネットで調べ、ジグソー法で交流する

○必要なリテラシーを身につける

④まとめ・表現

プレゼンテーション等により学習したことを学習サポーターに発表する

DX 助言をもとに改善点や新たな課題の視点について学ぶ

第2サイクル

①課題の設定

第1サイクル④の学習をもとに新たな課題を設定する

②情報収集

夏季休業中の課題にタブレットや保護者の携帯での情報収集を設定する

③整理・分析

夏季休業中に調べた事・体験した事を整理し、ジグソー法等で交流する

④まとめ・表現

DX DXキャリアチャレンジオンラインによりGTに向けて発表し意見や助言をもらう。オンラインでの保護者参観を行う

第3サイクル

①課題の設定

第2サイクル④の学習をもとに発展的な課題を設定する

②情報収集 ③整理・分析

これまでの学習を振り返り、交流しながら、整理・分析する

学習サポーターからの助言

④まとめ・表現

DX 学習サポーター、GT、保護者、地域の方を対象に発表を行う

DX QRコードで配信と意見の集約

GTや学習サポーターのキャリアに触れ、キャリアプランニング能力を育む
児童の主体的な学びと課題対応能力を高める
保護者や地域の方も新たな価値観を知る

STEAM教育

「基礎的汎用的能力」の育成



「DXキャリアチャレンジ」の様子を保護者に公開します

生活科・総合的な学習の時間に、自ら課題を発見し、様々なキャリアの人々と共に学ぶ「DX キャリアチャレンジ」について7月号で紹介しましたが、10月6日(金)より本事業の目玉であるたくさんのキャリアの方との学習が始まります。本校PTA会長の仁尾順さんの全面的なご支援により、なかなか触れ合えない講師の方々のキャリアに触れたり、学習についてのアドバイスをいただいたりします。お時間の許す範囲で、下記QRコードより指定時間内にアクセスしてください。

DX キャリアチャレンジ日程

期日	始	終	GT氏名(敬称略)	学年 SDGsや視点	形態	GTプロフィール等
10/6	11:30	12:15	①岩渕 幸洋	4・6年全 多様性・ パラスポーツ	リモート	日本のパラ卓球選手(協和発酵キリン)Rio2016、東京2020日本代表 早稲田大学、国際大会金メダル4回
10/12	13:35	14:20	①ジミー岩崎	5年全 環境・エネルギー	リモート	作曲家、編曲家、ピアニスト、キーボーディスト
			②くぼたみか		リモート	海外エンタメジャーナリスト、ライター、元タレント
			③森下優衣		リモート	大間々在住、JAL国際線CA、ハワイから帰国後成田より
			④栗山裕樹		直接	現自衛隊広報官、海上自衛隊「砕氷艦しらせ」元乗組員
10/13	10:35	11:20	①エスムラルダ	4年全 多様性・人権	リモート	一ツ橋大学、ドラッグクイーン、歌手ライター、脚本家等
10/18	11:30	12:15	①岩宿博物館	3年全 みどり市の魅力 生活との関わり	リモート	
			②グリーンアリーナ			
			③笠懸野文化ホール			
			④ボートレース桐生			
10/25	10:35	11:20	①順生警察署赤城駅前	2年1組	直接	学級別に行うため、学級によって授業日時刻が異なります
			②赤城駅	2年2組		
			③柏東保育園	2年3組		
			④大間々給食センター	生活との関わり		
10/27	11:30	12:15	①ジミー岩崎	6年1組 SDGs全般	リモート	同上
			②森下優衣			JAL国際線CA、カタルヘ出発前の成田から
			③栗山裕樹			同上
			④渡部麻友美			パンダダイナミックアメリカの保育員・幼稚園の先生→大田市内幼稚園の教育アドバイザー
11/4	14:10	14:55	①エスムラルダ	6年2組 SDGs全般	リモート	同上
			②ジミー岩崎			同上
			③森下優衣			同上
			④渡部麻友美			同上

<10月11日時点の予定ですので、変更される場合があります>

参加する場合の手順

- 1 希望のチャンネルのQRコードを呼び込み、「Web版」を起動してください。
- 2 自身の名前を入れる。
- 3 マイクとカメラを許可した上で、「オフ」にしてください。(オンにしたままだと参加者の顔と声が流れる)

※今後の授業でも使用していくmeetなので、正しい使い方をお願いします。

<11月4日はICTの公開日です。保護者の方へは事前に学校に申し込んでください>

講師① daito12 講師② daito13 講師③ daito14



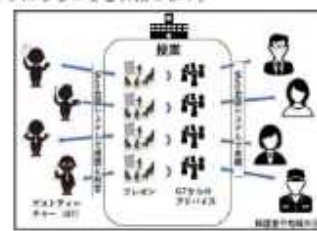
「DXキャリアチャレンジ」は、これまで学習サポーターの富所哲平さんを中心に、SDGsの学習をサポーターとしていただきました。また、3年生では、みどり市観光課の方にもお世話になりました。

DX キャリアチャレンジとは

- 生活科及び総合的な学習の時間に、新たに地域の方々や施設と直接またはオンラインで協働的に課題解決を行う学習を「DX キャリアチャレンジ」とします。ICTの強みを生かして、様々なキャリアの方々に学習でチャレンジしていきます。
- 「DX キャリアチャレンジ」では、SDGsを切り口として、児童自身が「課題発見」・「情報収集」・「整理・分析」・「まとめ・表現」を過程とするスパイラル学習を進めます。この学習過程に、様々なキャリアの方々(学習サポーターやGT)と共に学ぶ機会を設け、児童の課題対応能力やキャリアアブランチング能力を育てていきます。
- この学習の様子を保護者や地域にもオンライン公開して、学校で行うSDGsやキャリア教育について共有し、地域全体で児童を育てていけるようになることを目指します。



総合的な学習の時間の学習過程



DXキャリアチャレンジのイメージ(オンライン版)

将来の地域の担い手として児童を育てていくために、保護者・地域の方々にもお力をお借りしながら教育活動の充実に取り組んでいきたいと思っています。今年度始めた「DX キャリアチャレンジ」を、保護者の皆様とのネットワークも利用させていただきながら、発展充実させていきたいと思っています。是非、頑張る子供たちを温かく見守り、励ましてください。

学習過程(2年 生活科)

- ①課題の設定 ②情報の収集
③整理・分析 ④まとめ・表現
下線部はICT活用

第1サイクル

① まちたんけんの課題を設定する

どうして、保育園は一階建てなんだろう。駅では、どんなお仕事をしているんだろう。

② まちたんけんに行く

まちで、こんな「はっけん」をしたよ。タブレットで写真を撮っておこう。

③④ 整理・分析をする

お仕事について、たくさんの「はっけん」があったな。スライドにまとめよう。

第2サイクル

① 地域のすてきを伝える計画について話し合う

まち探検で見つけた「はっけん」や「はてな」を知らせたいな。だれに、どうやって伝えようかな。

② まとめたスライドをGTに発表して助言をもらう

地域の人が、どんな思いで、お仕事をしているのか聞けてよかったな。自分にできることはないかな。

③④ GTの助言を受けてスライドを加除修正する

GTから聞いたことを付け足そう。発表の時の録画をもう一度見てみよう。「はっけん」がよく伝わる写真はどれだろう。自分で考えたことを、スライドに入れてみんなにも広めていきたいな。

第3サイクル

① 地域の人を招待する計画について話し合う

「まちのすてき発表会」のために、招待状を作りたいな。誰を呼ぼうかな。

②③ 招待状を作成して、発表会の練習をする

もうすこし、大きい声のほうがいいよ。写真の説明を入れたほうがわかりやすいかもしれないな。

④ 「まちのすてき発表会」をする

「まちのすてき」を伝えられたよ。わかってもらえてうれしいな。

単元をふりかえる

地域の人のお仕事や思いが分かったよ。私たちの生活は、たくさんの人に支えられているんだな。

質の高い「気づき」 ⇒ 「基礎的・汎用的能力」の育成

学習過程(6年 総合)

- ①課題の設定 ②情報の収集
③整理・分析 ④まとめ・表現

下線部はICT活用

第1サイクル

① 探究課題の設定

世界や日本は、どうして環境問題や人権問題が起きているのだろう。みんなが幸せで仲良く過ごせる未来になってほしいな。

② 情報の収集

インターネットや本だけでなく、アンケート調査やリモートでインタビューをして、いろいろな調べ方ができたよ。

③④ スライドの作成と発表

スライドに調べた内容をまとめて、自分の課題が解決できるようにしたいな。このままで大丈夫かな。一度、GTの方にもできあがったスライドを見てもらって、もっとわかりやすいスライドにしたいな。

第2サイクル

① 課題の見直しと再設定

GTのアドバイスとこれまでの学習を基にして、みんなが幸せで仲良く過ごせるようにするために、自分ではどんなことができるかな。

②③ スライドの加除修正

夏休み中に、海洋汚染について本で調べてみようかな。自分の課題がよく伝わる写真はどれだろう。どんな言葉で説明すると、伝わるかな。

④ まとめ・表現

GTや家族にも見てもらって、自分の考えを知ってもらいたいな。自分の気持ちも発表に入れよう。自分でも、もう少し調べてみたいな。発表の時の録画をもう一度見てみよう。

第3サイクル

① 課題の見直しと再設定

アドバイスをもらって、解決方法を探してみよう。プラスチックを減らす理由も調べてみよう。

②③ スライドの加除修正

自分で考えた解決方法のメリットとデメリット、実現できるかや可能にするための方法をもう一度じっくりと考えてみよう。

④ 未来への提言の発信

みんなが幸せで仲良く過ごせる未来をつくるために、プラスチックをなるべく使わないようにしていきます。

④ 単元をふりかえる

世界や日本での問題がニュースなどで取り上げられている理由がわかったな。課題を解決するために、みんなもいろいろな方法を考えていたな。これからの生活で少しずつ意識していこう。

「基礎的・汎用的能力」の育成

各学年の実践



生活科・総合



2年生活「もっと なかよし まちたんけん」



保育園グループ

2回目のまちたんけんへ行き、
仕事内容を写真や動画で
記録に残す場面

給食センターグループ



2 飢餓を
ゼロに



2年生活「もっと なかよし まちたんけん」

そうだんしにのったり
しています。



交番グループ

児童の作成した
スライド



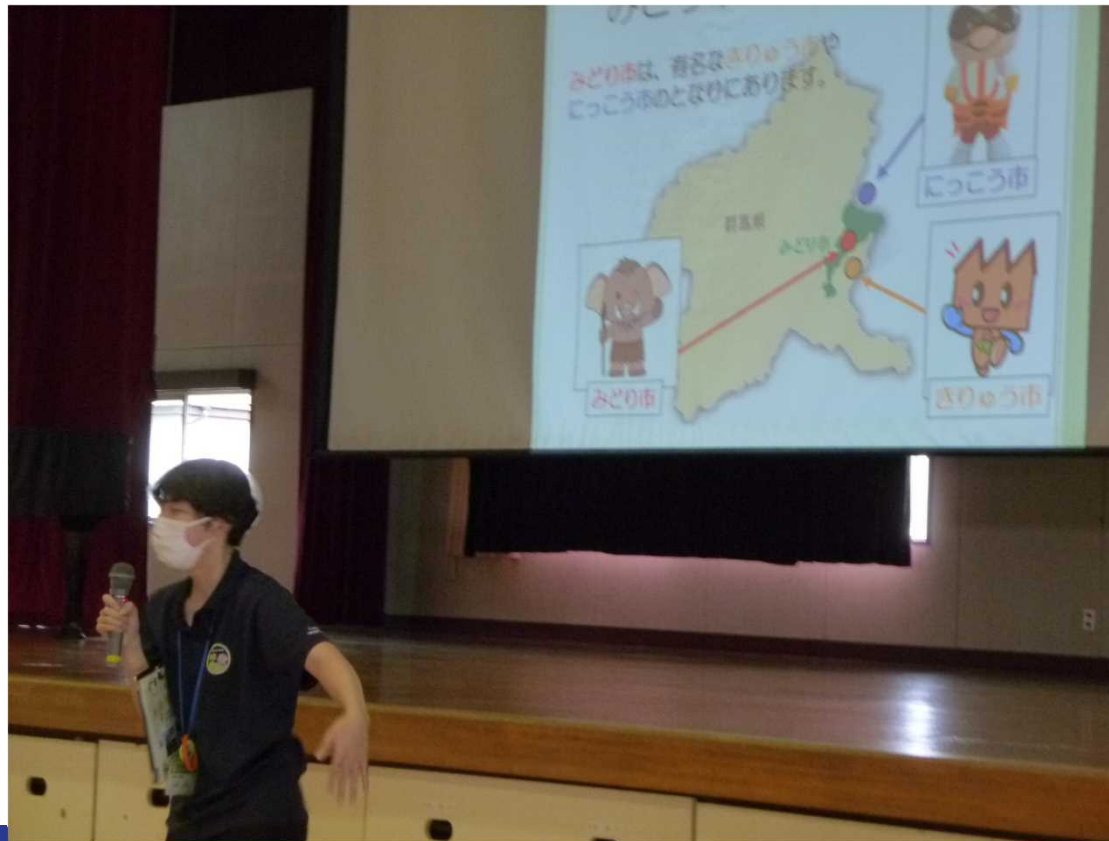
町たんけんで見つけた
「大間々町のすてき」を
スライドにまとめる場面



女の人はい、てんしや
をききな
いしている
よ。

赤城駅グループ

3年総合「みどり市のよいところ」



11 住み続けられる
まちづくりを



観光課の方に、こ
れからのみどり市
の魅力度アップの
方針を聞く場面



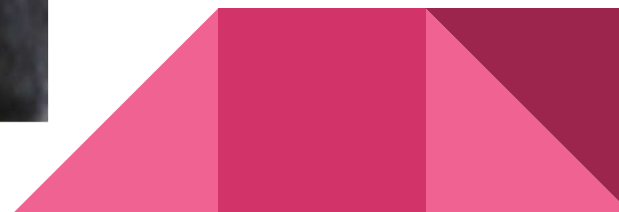
4年総合「さまざまな立場の人々」



3 すべての人に
健康と福祉を



SDG s 学習サポ
ーターの講演を実施
し「情報収集」を
する場面



4年総合「さまざまな立場の人々」

5 ジェンダー平等を
実現しよう



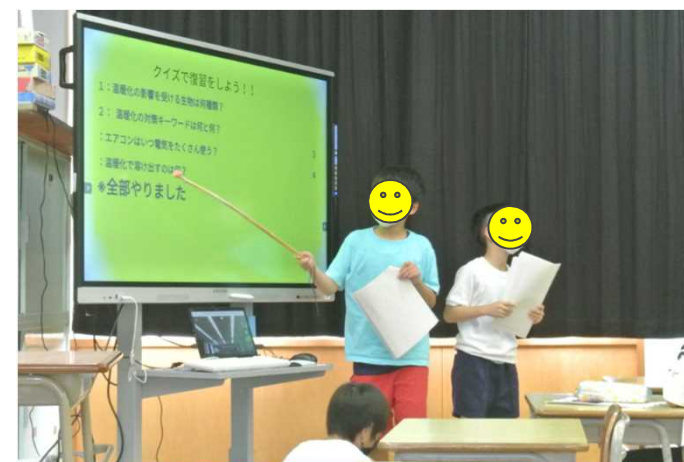
児童の発表前にG Tから自己紹介をしてもらっている場面



5年総合「SDG s 環境保全」



自分たちの調べた環境に関する内容を学習支援ソフトを用いてまとめて、GTに発表している場面



5年総合「SDG s 環境保全」

児童の発表についてGT
からアドバイスをいた
だいている場面

14 海の豊かさを
守ろう



6年総合「SDGsで描く、よりよい未来」

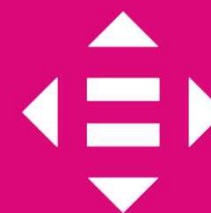


SDGs特に環境に特化して学習サポーターから話を聞き「探究課題」を設定する場面

4、6年総合「SDG sで描く、よりよい未来」



10 人や国の不平等
をなくそう



GTから話を聞き「情報
収集」をする場面

各教科



3年国語「毛筆 土」

電子黒板を用いて教師の筆
使いを拡大して見せる場面



5年算数「割合」



線分図を用いて、どちらが多いか考え、プログラミングされたスクラッチに数値を入力すると割合がグラフで表れ、自分の解答が合っているか可視化している場面



6年理科「太陽と月の形」



月の見え方を電子黒板を用いて、自分の考えを書き、相手に伝える場面



成果と課題



成果

- ・ ICT機器の導入により時間的・空間的制約がなくなった。
- ・ 児童が様々な職種の方の考え方にふれることで、多様な価値観や多面的な考え方の習得につながった。
- ・ 児童がSDGsについて考え、スライドにまとめることで、情報収集や自らの考えの発信ができる児童が増えた。
- ・ 児童はSDGsの視点や発表原稿を作ってから、校正と推敲を児童自ら繰り返し、よりよい発表をしようとしていた。

課題

- ・ 通信環境や機材の不具合が起きないように入念に準備することが必要。
- ・ ICTの研修にかかる時間が多くなってしまい、一時的に教員の多忙感につながってしまったが、扱いに慣れてくる来年度は、機器操作に関する研修の時間を少なくしていきたい。
- ・ 電子黒板が各クラスに配置されることで、児童の移動時間も教師の負担も少なく、さらに効果的な活用ができるようになると考えられる。

公開授業 研究協議の視点

自らの考えを深められる児童の育成のために
ICTを活用したことは、有効であったか。

本校の研修主題

自らの考えを深められる児童の育成

～ 「『はばたく群馬の指導プランⅡ』ICTVer.」を活用した授業実践を通して～

ご清聴ありがとうございました。

諸連絡